

「娘の死 無駄にしないで」

東京女子医大2医師逮捕

父親 言葉詰まらせ

「巨悪逃げ現場だけ処罰」

東京女子医大病院(東京都新宿区)で昨年三月、心臓手術中に小学六年生の平柳明香さん(当時十歳)が亡くなった医療事故で、警視庁が二十八日、医師二人の逮捕に踏み切り、同病院には大きな衝撃が走った。医療過誤を巡る医師の逮捕は極めて異例で、医療関係者からも驚きの声が上がった。警視庁は、業務上過失致死容疑のほか証拠隠滅容疑も適用しており、患者側のつかがい知れない「密室」で悪質な事故隠しがあつたことを示している。遺族は「娘の死を無駄にせず、警鐘と受け止めてほしい」と、今なお癒えない傷に複雑な表情を見せた。(本文記事一面)



死亡した平柳明香ちゃん

「下ガ分のしつぽ切りの」歯科医師の平柳利明さんら母ながら話した。利明さんは会見に先立、織的な問題があるとの見解を示した。彼(瀬尾容疑者)の意思は、平柳明香さん(46)は会見に先立ち逮捕された一人には、明香の死を無にする生方をしてほしい」と悲しみをこぼさず話した。



担当医師らの逮捕を受け、会見する平柳利明さん(午後0時30分、群馬県庁で)

「娘の死を無駄にしないで」と、今なお癒えない傷に複雑な表情を見せた。(本文記事一面)

院長「驚き」と無念

同病院では正午前、事務職員が、文書にした林直昭院長のコメントを報道陣に配布した。「このような事態となり、驚きと無念の答えを押し問答が思いになつてゐる。医療不信を来す結果となり、誠に申し訳ない。新しい病院組織への再生へ向け、職員一同、一層の努力をしてゆくと約束した」。

その後、事務部の鎌倉勇次院長が別題の通用口を答へ見せたが、逮捕された医師の経歴や病院側の具体的な対応などについては一切説明を拒んだ。報道陣が鎌倉院長を取り囲み、「会見は明かさないでほしい」と訴



佐藤一樹容疑者

もいと思つたが、巨悪が逃げて現場だけが処罰されたという印象だと話した。そのうえで、捜査の過程で実態が明らかになることを願望した。利明さんは、今年一月に告訴状を提出した際、「病院側の報告書に過失があることは明らか。担当医師が隠れたいと書いた気が一番許せない」と話していた。

同大病院出身で、地方の病院で働く女性麻酔医は「の口、たまたま病院に用事があり訪れた。人間がやることだから、医療ではこの段階でもミスはあり得る。隠してはならない方がいけないのでは」と語った。同病院の院長と副院長は二十八日正午過ぎ、厚生労働省医政局を訪れ、「逮捕者が出てしまった。お騒がせして大変申し訳ない」と陳謝した。同告は、同病院について高圧な医療を提供する「特定機能病院」の指定から外すことを検討中だ。

女子医大小児心臓手術事故

2 医師逮捕

2002年6月28日 読売新聞夕刊社会正